令和元（２０１９）年度第１回総合教育会議概要

日　時：令和２（２０２０）年1月２８日（火）１５：００～１６：０５
会　場：柏崎市役所第二分館　第５会議室
出席者：櫻井柏崎市長、近藤教育長、阿部教育委員、三宮教育委員、米谷教育委員、三嶋教育委員、事務局（箕輪総合企画部長、木村総務課長（事務局）、近藤教育部長、清水教育総務課長、山田学校教育課長、徳間教育総務課課長代理）
傍　聴：１人

１　開会挨拶
（市長）本日はそれぞれお忙しい中、また教育委員さんにおかれましては通常の教育委員会に引き続いて、令和元年度第１回総合教育会議に御参集賜り、ありがとうございます。
日頃から柏崎市の教育行政を支えていただいている皆様には心から感謝申し上げます。
今日の総合教育会議という場では、議題に対して皆様から御意見をいただいたり、せっかくの機会ですので、いろいろとお話をお聞かせいただいたりしたいと思っています。教育大綱は法制度が変わり、行政を預かる長、柏崎市で言えば市長、町であれば町長、村であれば村長、それぞれ行政の長が教育大綱を作ることになりました。そういった場面で行政の長が作ったものを教育委員の皆さんからお話をお聞かせいただくということです。また、法制度が変わったことにより会議を公開することになりましたので、傍聴の方もおられます。
それでは、皆様から忌憚（たん）のない御意見をお聞かせいただきますようお願いします。

２　議事　　教育大綱の改定について
（事務局）会議は市長が進行を行うことになっています。市長お願いします。
（市長）それでは次第にありますように、今回の総合教育会議の議題は、教育大綱の改定について、まず事務方が、教育大綱というものはどういうものなのか説明します。
（事務局）資料の「柏崎市教育大綱」について、を読み上げさせていただきます。
（省略）
（市長）教育大綱が法律的に位置付けられているところ、地方自治体がこういったものをつくることについて説明させていただきました。私の方からも少し付け加えさせていただきたいと思います。皆様方に資料としてお配りすればよかったのですが、国は、2018 年度から 2022 年度までの教育振興基本計画を策定しています。国版の教育大綱的なものです。こういったものをベースに、それぞれの地方自治体が、市においては市長が、その自治体の実情に合わせた教育の大まかな考え方を記すものです。主な内容は学校教育に関することと最初勘違いしていました。教育長を始め教育委員会職員に事前に見せたところ、教育長から、教育大綱は国の教育振興計画の中にも文化・芸

術が入っている。つまり、学校教育のみならず教育というものを広く捉えられて大綱を作らなければならないということが首長に課せられているということでした。国がどのような方針で第三期の 2018 年度から 2022 年度までの教育振興基本計画を策定しているかというと、まず現状があります。初等中等教育段階における世界トップレベルの学力と維持ということが最初に書いてあります。その他に給付型奨学金制度、学校施設の耐震化。今後の課題として人口減少・高齢化、技術革新、グローバル化、子どもの貧困、地域間格差などといった課題認識があります。

また、教育をめぐる状況の変化として、子どもや若者の学習・性格面の課題、教師の負担増、地域や家庭の状況の変化、そういった課題認識があります。世界的な政策の動向として、OECD による教育政策レビュー、いわゆる先進諸国といわれる OECD の中で、日本の子どもたちの学力が位置付けられているのかなども課題となっています。

今後として、超スマート社会の実現など、社会構造の急速な変革が見込まれる中で、次世代の学校の在り方など未来志向の研究開発の推進、次世代教育の創造に向けた研究開発と先導的な取組の推進、持続可能な社会教育システムの構築に向けた新たな施策を採るとしています。

そうした中で、私が作った教育大綱を読ませていただき、皆様から御意見をいただきたいと考えています。

まず基本理念として、「賢く、元気に、一層豊かに」、「現実を見つめ、理想を求める」「自分を大切に、人に思いやりを」としました。国の教育振興基本計画に掲げている概念を少し噛み砕いて理念としました。

子どもたちを取り巻く社会

国際化は当たり前のものとなり、物事の進展、変化は激しく、そのスピードはますます速い。アイデンティティ、個性が尊重され、価値観は正に多様化してきている。同時に、他者への関心、配慮、また、組織、コミュニティへの帰属性は薄らぎつつあると言われている。

国においては①狩猟社会　②農耕社会　③工業社会　④情報社会に続く新しい社会、つまり超スマート社会 Society 5.0 時代の到来を記している（第 3 期教育振興基本計画）。この流れ、つまり AI（人工知能）や AR（拡張現実）、ICT（情報通信技術）、IoT（モノのインターネット）によるデジタルの時代は生産合理性をもたらし、便利で快適な生活を導き、そして、人が行う領域を限定していく。一方、日本においても非人間的な行動、相手を思いやることのない振る舞いが事件として毎日のように報道されている現実がある。合理性の追求にのみ目を奪われた結果のようにも思える。非合理領域（情緒、感性）の価値を見失っているのではないか。

当たり前のことだが、技術革新、イノベーション、デジタル技術は、人のためにある。人を思いやることは、少なくとも二進法ではない。柏崎市の教育はデジタル社会

の今だからこそ、真に豊かな社会を作り出す、人の力、「アナログの力」の充実をまず目指す。

基本目標

「基礎学力をしっかりと身に付けた子どもを育む」「新たなこと、更なる高みに挑戦する子どもを育む」これは、算数や国語などの教科だけでなく、スポーツ、運動といったものを含めています。「他者を思いやることができる子どもを育む」「生涯学び、向上し続けられる環境を育む」

具体目標

「基礎学力（国語、算数、数学）向上」、体力の向上のうち「走力向上」「いじめ見逃しゼロ」「知的好奇心、体力の維持・向上」

重点施策

「英語よりもまずは国語（小学校）」「コンピュータよりもまずは算数、数学」「キャリア教育よりもまずは柏崎の自然、伝統、文化に触れる活動（小学校）」「指導補助員、介助員の更なる充実」「ハンディキャップのある方との時間の共有」「部活動の在り方の検討・見直し」「学校事務処理作業の効率化、教員支援」「生涯学習・スポーツ環境の充実」

柏崎市は、「強く、やさしい子ども」を育てます。

教育はまちづくりの原点と考え、可能な限りの財源を投入します。

大綱案は、以上です。もう少し付け足して御説明します。

最初の「子どもたちを取り巻く社会」は、私の率直な思いを書きました。もちろん私自身もコンピュータやスマートフォンを使います。その便利さも享受しています。しかし、周りを見渡した時に、デジタルに人間が振り回されているのではないか。元々人間が持つ良さ、情緒や感性といったものが失われているのではないか。Society5.0を目指すためにも、人間力、文科省の言葉で言えば、生きる力、人間の力を、私の言葉で置き換えたら「アナログの力」とさせていただき、そこを柏崎の教育は、まず力を入れたいと考えました。

重要施策ですが、英語はもちろん大切です。小学校5年・6年に英語が教科化されます。小学校3年・4年も外国語活動が始まります。国際化時代なので、どの国に行っても世界の人たちと英語を使って会話をする、コミュニケーションをとる、自分の主張を話すことができる、人の話を聞き取ることができる力は非常に大事だと思います。しかし、私はまずは国語ではないかと思います。私自身も教育大綱を書いている時に漢字を間違えました。まずは母国語の日本語を、特に小学校では勉強してほしいと思っています。文部科学省から言われているカリキュラムをひっくり返す気持ちは、

ありません。コンピュータ教育も、もちろん大切です。国は、補正予算で半分補助をするから令和5年までにパソコンを1人1台環境にしなさいと言っています。1人1台とは小学校1年から中学3年まで全員です。半分は、市が負担します。何千万円も掛かります。お金だけの話をしているわけではありません。例えば小学校1年がコンピュータを預けられて、それでどういうことを学ばなければならないのかという方向性が文科省から示されていません。国は、もう少し考えていただきたい。まずコンピュータを使う、プログラミングを行うためには、算数・数学の能力を鍛えることが大事だということです。キャリア教育は職業教育と間違えそうですが、職業教育ということではなく、私は、小学生のうちはキャリア教育にウエイトを掛けるよりも、まずは柏崎の自然、伝統、文化に触れる活動をしてもらいたいと考えています。もちろんキャリア教育も、行います。指導補助員や介助員は、皆様のお力添えもいただきながら充実してきました。中学校の指導補助員の充実度は、県内で一番になりました。小学校にも更に増やしていきたいと考えています。

あと、ハンディキャップのある方との時間の共有、なかなか機会はありませんが意識をしてこういうことを行うことが、キャリア教育、情操教育につながるのではないかと考えています。

部活動は、在り方の検討・見直しと書いてあります。今、少子化で一つの中学校だけでは活動できない状況がいっぱい出てきました。例えば野球は9人必要です。サッカーは11人です。一つの学校でできません。中学校における部活動の在り方を考え直してもいいのではないかと思います。

他には、先生方は忙しすぎると思います。私も5年間教師をやりましたが、今の柏崎の先生方は忙しすぎると思っています。かつて教員は、夏休みや冬休み、春休みがあっていいな、と言われていた時代がありました。私のときはそう言われていました。しかし、今は忙しい時間を過ごしています。そういった中で、子どもたちのために指導補助員や介助員を増やしていますが、一方で、激務である先生方の事務作業の補助を少しお手伝いがサポートできないだろうかという視点で、このようなことも考えさせていただきました。

また、人生百年時代を迎えて、70歳くらいまで働くことが当たり前になっていく中で、生涯学習も大事だということで書かせていただきました。

最後の部分については、私としては、教育こそはまちづくりの原点であるという考えで、可能な限り財源を投入したいという私の覚悟を書かせていただきました。

以上です。皆様からお一人ずつ御意見などをお聞かせください。

（三宮委員）具体目標の走力向上が、走る力のみだけでなく体力向上という意味もあるとのことでしたので、子どもの体力向上と併せて先生方や行政の動きも速やかに事が運ぶ向上にもなるといいなと思いました。いじめ見逃しゼロは、これまでの反省点を踏まえてこのことが実現していったらいいとも思いました。また、コンピュータやスマートフォ

ンが普及しましたが、親としてもトラブルに巻き込まれる危機感はあります。小さい子どもにもスマートフォンを預ける現実があるかと思うと、危険なところも示せるようなことがあったらいいと思っています。大学では英語の他に第二、第三の外国語を学ぶようになってきていますが、小さなときから言葉の使い方、小中高で国語をしっかりと教わると良いと思います。

生涯学習の面では、学校を卒業した大人や仕事を引退した方々も学びたい意欲を感じます。例えば、アルフォーレ等で開催される芸術鑑賞に多くの方が来場している様子は、学びたい意欲が高いと感じます。楽しそうに学んでいる姿を見て、生涯学習にも重点を置いてもらいたいと思います。

（市長）走力向上は、体力向上にした方が良いという御意見でしょうか。

（三宮）その方が分かりやすいと思いました。

（阿部）まず手続のことですが、今回の教育大綱の見直しは、期間が来たから見直すのかそれとも社会情勢の変化によるものなのでしょうか。

（市長）期間が来たから見直すものです。

（阿部）今後は期間を定めないこととするのか、３年、４年と期間を定めるのでしょうか。

（市長）内部での話合いでは、第五次総合計画との兼ね合い、行政の長の交代等をしたときに変えることもできるので、期間を定めない方が柔軟な対応ができると考えています。

（阿部）総合教育会議とは、市長と教育委員会の協議の場となっていますが、教育大綱は今日の話合いを基に最終的に市長が決定するものであり、この会議で決定するものではないということでしょうか。

（市長）そのとおりです。

（阿部）分かりました。教育大綱案ですが、「子どもたちを取り巻く社会」の文面を踏まえたものが必要に応じた見直しだと読みましたし、アナログの力を目指すという部分は、賛同します。こういう時代だからこそ、人と人とが向き合って、無駄と思える時間もマンパワーを含めて必要だと思うので、この部分は是非いかしてもらいたいと思います。

具体目標を見たときに思ったのは、学力ももちろん必要ですが、子どもたちには、集団のルール、社会のルールを幼少期から身に付けてもらいたい。集合時間を守るとか、提出物の期限を守るなどを盛り込んでいただけたらと思います。それから、「可能な限

り財源を投入する」という言葉に、並々ならぬ覚悟を感じています。

（市長）次、米谷さんお願いします。

（米谷）「アナログの力」の充実をまず目指すということ、国語と算数、英語よりも国語、コンピュータよりも数学、と書かれていることについて、私も賛成です。１ページにある「非合理領域（情緒、感性、倫理）の価値」ということはとても大事だと思っています。科学を進化させることは大事ですが、科学化、工業化が行き過ぎた場合にブレーキを掛けていくのが非合理領域だと思いますので、それを育んでいけるような教育が大事だと感じている昨今です。まずそれを実現するためには、基礎学力が基本だと思います。

今、個性や自由が尊重される社会ではありますが、集団の中でのマナー、礼儀を守ることが大切であることをしっかり身に付けて社会に出てほしいと思います。それには、読む力や理解する力が大事だと思うので、母国語を読む力、話す力、自分の考えを日本語で伝えられることが大切だと思います。グローバル化の時代なので英語が話せると楽しめるとは思いますが、まずは日本語が基本です。日本語で語れる力を持って海外に行けば、多様性の中で他者を思いやる心ができていくのではないかと思います。英語を幼いうちから学ぶことは、慣れるという意味ではいいと思いますが、限られた授業日数の中でコンピュータや英語よりは国語や算数が大事だと常々感じていました。国が策定する教育方針があるのでしょうが、市の大綱で国語や算数が大事だと掲げていることはありがたいと思っています。

長男、次男がサッカーの社会体育でお世話になったので興味を持っているのですが、日本のスポーツ活動の育成では、幼い頃から個人の技術の向上を第一にし、チームの中で自分がどのように機能するのかを理解するのが遅れるという意見を耳にします。コンピュータやスマートフォンについても、幼いうちに操作や技術はすぐ覚えられますが、社会とつながったときに危険が生じたり、社会全体の中での自分の立ち位置が分からない年齢では、保護者や指導者がしっかり見ていかなければならないと感じています。

あと、「ハンディキャップがある方との時間の共有」となっていますが、今はどちらかというと身体や学習に障がいがある人を別のクラスに分けてしまう方向性があるようです。それぞれの子どもたちにとってその方がいいのかもしれませんが、私たちが小中学生のころにはクラスにいろいろな子がいたと記憶しています。先生方の負担への配慮なのかもしれませんが、子どもたちのクラスにハンディキャップのある方が共存することは意味があると思います。

生涯学習においては、特にアルフォーレはすばらしい音響設備がありますが、中高生の吹奏楽のコンクールでは、待機場所が十分でなく、エネルギーホールまで生徒を移動させていました。この音響設備が中高生の音楽コンクールに十分に利用されていないのが残念です。ソフィアセンターはいろいろな年齢層が時間を過ごす場所として使っているので、全国的にも地域の図書館の機能が多様化している先例を参考に、機能を充実さ

せてほしいと感じています。

（市長）それでは三嶋さんお願いします。

（三嶋）超スマート社会なのであれば人間力だよ、ということで市長はこのような社会だから、「アナログの力」が大事であると結んでいると思います。それであれば、こうだからアナログが大事だということをもう少し加えた方が分かりやすいと感じました。

指導補助員や介助員の増員ということに加え、今度、英語や専門分野のプログラミングが導入されます。そこで、ＡＬＴ等専門的な人を各校に巡回させることも必要でないかと思います。

部活動も生徒の減少で思うような活動ができないことが現実だと思います。先生方も時間を取られると思います。働き方改革等を行い、負担軽減が必要だと思います。皆さんが言われるように、私も基礎学力が大切だと思いますし、いじめ見逃しゼロも意識付けが大切だと思います。

（市長）皆さんありがとうございました。一通り御意見を伺いました。教育長も一言あればどうぞ。

（教育長）先ほど市長が内輪話をされましたが、最初の案をいただいたときは学校教育大綱の趣があった気がしましたので、生涯学習やスポーツの話をさせていただいて盛り込んでいただきました。それでも、学校教育に関する色彩が強いかと思います。私は読んでみて、子どもを取り巻く社会に関して、子どもたちを育てていくことが、将来のまちづくりの資産につながるという市長の熱い思い、強い思いを感じましたし、学校、教職員に伝えていきたいと思っています。

重点施策に関しては文部科学省の部分も気になるのですが、市長もおっしゃったように英語をしないわけではなく、それ以上に国語、これは日本語というよりも国の文化、歴史を踏まえた上での日本語のことだと理解していますし、大切にしてもらいたい。それから、コンピュータよりも、キャリア教育よりもということですが、これは教職員に対する戒めの一つでもあると考えています。教員は新しいものに飛びつきやすい、ともすると古い物をないがしろにしやすい。例えばですが、英語、国語、コンピュータ、算数・数学、キャリア教育、自然、伝統、文化とすると、左側（英語、コンピュータ、キャリア教育）の研究会があるとそちらの方に参加者が流れていって、右側（国語、算数・数学、自然、伝統、文化）は人気がないという傾向がある中で、戒めの意味も強いのかなと私自身は受け止めました。やはり基礎学力を含め、確実に子どもたちの中に定着させて、そこで培った知力、学力の上に、更に新しいものを醸成していくことを今後の教育で取り組んでいきたいと思っています。

（三宮）重点施策の「キャリア教育よりも」というところで、去年の夏に小学生を対象にしたお仕事体験塾があった時の感想に「仕事に興味を持った」、「柏崎市がもっと好きになった」などがありました。これはこれまでの教育の中でできていることだと感じましたし、今後どのように膨らんでいくのかと楽しみになりました。

部活動の在り方ですが、例として、陸上競技場では学校の枠を超えて、得意な種目を持つ先生が指導していました。子どもが減少していく中で、数年後、数十年後にいろいろな部活がそういう形になるのかなと思うと、これからの在り方の一つと思います。柏崎全体でいろいろな競技を育てる、陸上や水球に限らず子どもたちが輝いていけたらいいと思いました。キャリア教育で子どもたちが学んで柏崎に残りたいと、しかし、高校に進むときに柏崎でなく長岡を選ぶ子どもがいる、さらに、大学は県外を選ぶ子もいるとなったときに、柏崎にはいい高校、いい大学がある中で、高校も大学も今よりも更にいい学生を育てようという意識の下で、特に二つの大学には、学生から選んでもらえるような学校になってほしいと思いました。

子どもたちが柏崎を出る、戻ってくることを理想にしていると思いますが、ここで育ち、人口が増えることが将来あったらいいと思います。

（教育長）現在のキャリア教育は、狭い意味では職業教育だとか進路などということですが、今はどちらかというと生き方教育的な意味で使われることが多くなってきています。いきなりキャリア教育、生き方について考えてみなさいとやる前に、自分たちが育ってきた柏崎、地元に触れる活動を通じて、その体験に基づいた上で考えていくことが大事だと私は受け止めて、これは大切なことだと思いました。

（阿部）去年も申し上げたかと思いますが、私は英語は早くから取り組ませるべきだという考えは変わっていません。日本の文化なども大事ですが、幼少期から英語を学ばせるべきだと思います。それについて英語の先生が足りないのであれば、民間の方やリタイヤした方から教えてもらっても良いと考えています。そういうことで柏崎に行けばいいことがあるよと、人口増になるかもしれない。

大綱に、個性、アイデンティティという言葉もありますが、私はアイデンティティという言葉に注目をしたくて、個性を磨き光らせるという、個人がそうなることで柏崎の町全体が教育でアイデンティティが深まって人口増につながれば良い。その一つとして、柏崎の英語は凄いよとなるといいなと考えています。

（市長）ありがとうございました。皆様からいただいた御意見をいくつかポイントとして入れさせてもらいますが、これ以上長くはしない方がいいと思います。最終的なものは皆様にお送りしますので、それでお任せいただきたいと思います。

ポイントとしては、複数の方からいただきました「社会的な規範、ルール、礼儀をしっかり身に付ける」ということを入れた方がいいということ。また、走力という言葉よ

りも全体的な「体力」の方が分かりやすいのではないかということ。英語の話も出ましたが、「指導補助員、介助員の更なる充実」のところにＡＬＴの充実を目標として加えたらどうかということ。また、日本語を話す力、人が言うことを聞く力、つまり「対話する力、コミュニケーションする力」の重要性も伺いました。それから、生涯学習をする中で、柏崎が持つ優れた施設をより良く使ってもらいたい、更に充実させてほしいという御意見も伺いました。

以上いただいた意見を含め、できる限り踏まえて修正を加えます。最終的な文章はお任せいただきたいですが、それでよろしいでしょうか。

（委員）異議なし

（市長）ありがとうございました。以上で総合教育会議の議題は終了します。

＜話題提供＞　学校における諸課題の報告

柏崎市立小・中学校の現状報告

３　閉会

（事務局）本日、協議いただいた教育大綱は、市長が加筆、修正をし、内部決裁手続を経て、完成とします。完成したものは、教育委員の皆様に送付させていただきます。その後、市ホームページで周知をするとともに、２月定例会議の中で市議会議員に報告をします。本日の会議の議事録についても、後日、市ホームページに掲載させていただきます。

以上で令和元（２０１９）年度第１回総合教育会議を終了します。